成人映画

82

1972＝￥200

昭和44年12月18日　第３種郵便物認可　昭和47年11月１日発行通巻82号　毎月１回１日発行

特集★渡辺護監督の「即席監督に何が出来るか」その賛否

〈城新子〉の大胆なY談・欲情から歓喜へのプロセス

新刊・日活ロマンポルノ大全集

日活ロマンポルノがこの一冊でわかる！

50本の作品の名場面の全貌をカラーとグラビアで集録（二四〇ページデラックス版）

この特製保存版は書店では売っていません。ご注文は現代工房へ

──内　容──

●「色暦大奥秘話」から「八月はエロスの匂い」までカラー32ページで紹介

●衝撃の名場面50本グラビア

■評論集─人間の根元をとらえる日活ポルノ路線＝村井実

■ポルノ映画はだから必要なのだ＝斉藤正治

■ポルノ映画評＝セックスプレイからみた日活ロマンポルノ＝眼次郎

■女優の股に向って突入せよ・日活ポルノを支える若い才能たち＝斉藤正治

●刑法一七五条に挑むロマンポルノ監督名鑑

●ロマンポルノのスターたち＝女優名鑑

●ロマンポルノ作品リスト

現代工房の編集レイアウトにより、辰巳出版から出版しました。

特製本一冊500円。現代工房で注文次第郵送します。現金書留で注文下さい。送料145円

新・魅力探険

エロスの誘惑・篠原千恵

若松孝二監督の「現代日本暴行暗黒史」で男たちに犯されて気が狂い、男をみると「観音様みる？」といって女性自身を開陳する役をやった。印象的な役であった。

面長な典型的ー青森美人。肌も雪肌。セミヌードモデルからピンク女優に。デビュー作が山本晋也監督の「大色魔」(45年）に出演。

25才のサラリーマンの恋人がいて、セックスライフも週2、3回、マンゾクーなそう。

「亭主関白的なタイプが好きで、カオヤスタイルは興味ない。人柄よ」とハッキリしている。19才にしては考え方も大人。身長161、B86、W58、H87。 青森県五所河原の出身。磨けばグンと光る玉だ。

成人映画

No. 82――目 次

表紙・城新子

ピンク映画を駄目にした一因は安易な〝俳優監督〟にある――という提言

『即席監督に何が出来るか！』

日本映画の総体的低迷度は先刻ご存知の通りで、ピンク映画もご多聞にもれない深刻さ。それはなぜか――原因はいろいろある。

企画の貧困や、製作費の削減、監督の問題、日活ロマンポルノの侵入など……。そんな中で、この道十年のベテラン渡辺護監督は、それらを踏んまえた上で、俳優が安易な態度で監督をしている風潮が映画界をダメにしていると、批判している。

十年間、悪条件の下をかいくぐってきた自分たちの努力が、安易派のインスタント監督に荒らされてはたまらない、ピンク映画にとってマイナスだ！というのだ。果たして〝俳優が監督をやってはダメなのか渡辺監督の「提言」を中心に――関係者の意見もきいてみよう。

「ピンク映画なら誰が撮っても同じ」は危険

監督＝渡辺　護

ピンク映画も、いま深刻な事態に直面している。ピンク映画の危機の外在的要因はいうまでもなく日活ロマンポルノの登場であり、内在的要因は、俳優たちの間に〝誰でも監督はできるのだ〟という安逸な風潮が底流している点を見のがすわけにはいかない。

実際に俳優あがりの映画監督がこの世界に存在するし、現役のピンク女優が監督を手がけるようになった。誰が監督をやろうと、もちろん、私の知ったことではない。作りたい奴は作ればいい。演出をするからには、それ相当の経験に裏打ちされた技術を要するであろうことは論を待たない。

俳優が監督を手がけることに反対しているのではない。俳優は俳優の職分を守れ、監督は監督の職分を守れといってい

その賛否論

特別寄稿・渡辺護（監督）

るのだ。全スタッフがその職分を守り、全俳優が、その役を演じ切るように努力せよ！といいたいのだ。
　私は監督として、俳優やスタッフを支配したいというのではない。さらに監督と俳優は主従関係にあるといいたいわけではない。監督と俳優が〝なれあいで〟映画を作るようになったら、もうおしまいだといいたいのだ。監督と俳優が協力しなければ映画は作れない。しかし、協力と〝なれあい〟とは違うと思う〝なれあい〟の中には監督の領分に対する俳優の侵犯があると思う。俳優は俳優であることの限度を認めなければならない。その限度を認識して、はじめて本当の意味での監督と俳優との協力関係が成り立っていくのだ。
　また俳優の監督不信を側面から助長しているのは、奇抜なカットの重視があるからだと考える。奇抜なカットでありさえすればいいという考え方は、当然、カメラマン重視になり〝監督なんていらね

演出する渡辺護監督

野上正義監督第一作「性宴風俗史」

え〟というような幻想である。極論すれば、脚本にコンテを書いておいて、その指示に従ってカメラマンがカメラを回せば、映画は作れるということになってしまう。

苦難の状況下に耐えた〝根性〟が危機を救う

いまさら、私がこうした説明をしなければならないほど今日のピンク映画の情況は荒涼としている。

最後に日活ロマンポルノだが、その存在が気にかからないわけではない。日活の監督の中にも、私が認めている人材はいる。

日活ロマンポルノが、この程度の映画を作っているのなら、わがピンク映画の世界に、これに対抗できる監督は何人もいる。若松孝二、向井寛、新藤孝衛、山本晋也らの名前をいくらでもあげることができる。

私は十年間、ピンク映画を作り続けて来た。三百万円映画と俗称されていたピンク映画も、しだいに製作費は削減され、いまでは百数十万円で作らなければならない。製作費の削減は、製作日数、キャスティング、ドラマの状況設定にまで影響を及ぼす。

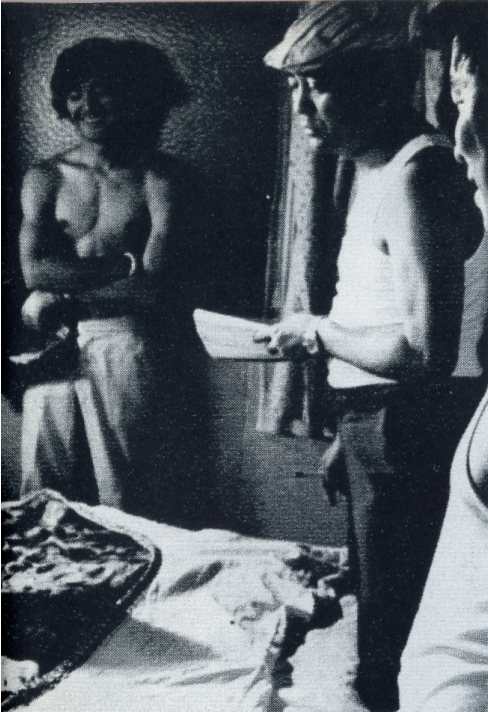
こうした劣悪な製作条件の下をかいくぐりながら、私を含めて、ピンク映画の監督の何人かは、十年間ピンク映画を撮り続けてきた。映画を作るという以前の段階で、私たちは、まず製作条件と闘わなければならなかった。五社の監督たちから見れば、二重、三重に疎外された製作条件の下で十年間映画を撮り続けてきた私たちが、日活ロマンポルノのさざ波程度で横転することは断じてありはしない。

私はピンク映画の〝職人〟として映画を撮り続けて来た。私は、この〝職人〟という言葉を愛する。かつても、いまも芸術家意識に貫ぬかれているような、トンマな監督がまともな映画を作ったためしはない。

私はあたりまえの人間がこの世を生き抜いていく、その哀しみとこっけいさとを撮り続けたいと思う。革命とか反体制を表看板にして一部の学生のゴキゲンをとるようなことはしたくない。

ピンク映画の危機を救うためには、まず何よりも監督の権威を復権することにあると私は考える。監督と俳優のなれあいは、ごめんこうむりたい。

俳優出身は本当に駄目か！

「処女悩殺」を演出する加奈史郎(右)

ピンク映画界ばかりではなく、映画五社、独立プロの間でも前歴が俳優で、監督に転向した人も数多い。たとえば、衣笠貞之助監督は女形だったし、稲垣浩監督も俳優だった。女優監督の第一号の田中絹代、独立プロで、「蟹工船」を監督した山村聡、最近作では勝新太郎が何本も監督しているし「約束」や「旅の重さ」を監督した斎藤耕一は、日活の石原裕次郎作品の専門みたいなスチールマンだった。勝新、斎藤作品はそのユニークさで、ヒットを飛ばしているし、既成の監督にない腕の冴えをみせている。

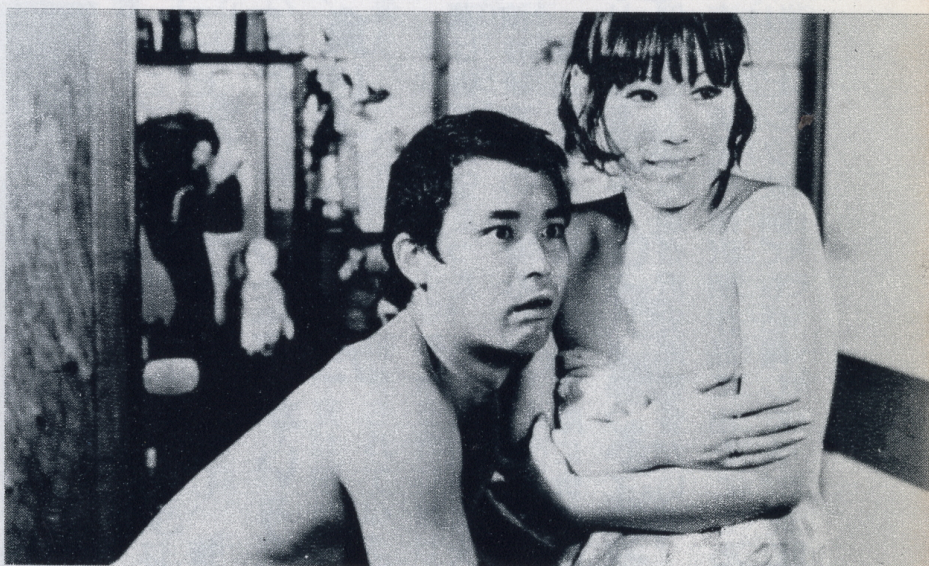
そこでピンクの場合だが、向井寛はチョッピリ俳優業も経験しているし、梅沢

「落ち目」の監督がいう負け犬の論理だ

薫は俳優志望だった。当の渡辺護は大映演技研究所の出身なのだ。

渡辺監督が指摘する「実際に俳優あがりの監督が存在する」点について、現に例を引くなら加奈沢史郎監督がいる。元東宝の俳優で黒沢明作品に出たこともあり、ピンク映画でも活躍した人。そこで加奈沢監督の〝俳優出身の監督存在論〟。

「ガミちゃん（野上正義）が監督をちょっとやってみようとか、谷ナオミが宣伝をかねてやるってのは行きすぎと思うけど、本当に監督をやってゆくということは生やさしいもんじゃないし、ボクは相当な覚悟で専念しているつもりだ。ナベさん（渡辺護監督）は売れっ子の時はそんなことといってなかったのにねえ。自分の職場を荒されたくないという落ち目の

「性の殺し屋」で監督した谷ナオミ

「性宴風俗史」

人がいうことで、あせっているんじゃないのかな。新人監督よドンドン出て来い、しかしこの世界はキビシイということだ。才能のある人が新しい作品を提供してお客をよろこばせるのが本当だと思うんだけどねえ」

そこで加奈沢監督が例にあげた演技派の野上正義の場合。ことしの三月公開で「性宴風俗史」(六邦映画)を監督している。

彼は「俳優が監督やったって一向にかまわない」と前おきして「いまの監督で俳優の経験のない人を数えた方が少ないくらいじゃないのかな。監督になるには助監督を長くやったからといって必ずしも監督になれるかというとなんの保証もない。ボクは一本だけやったが、役者として非常にプラスになったし、事情がゆるせば、今後も監督をやりたい」と逆に意欲満々なのだ。

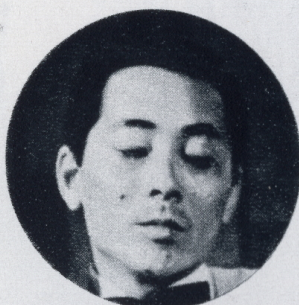
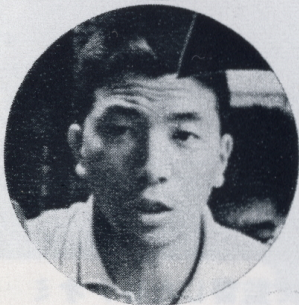
ただ「役者をやめてまで監督になりた

「淫らな花弁」

ポッと出の監督より よっぽどツボを心得てる

いとは思わない」といい、やはり役者が本流というのだ。

そこで〝現役のピンク女優が監督を手がけた〟というと、当然、谷ナオミのことになる。現に六月作品「性の殺し屋」(六邦映画)でメガホンをとっている。しかも出演の二股だ。六邦映画は、よく俳優を監督にしたり、商業ベースにのる作品なら積極的だ。

そこで鈴木邦夫六邦映画社長のいい分「野上君の場合は俳優のキャリア、それに真剣さを買って起用した。彼のためなら出演者も協力的だし、作品的にも評判は悪くなかった。谷ナオミの場合は、主演、監督ということで、監督は松原次郎

長岡丈二

新藤孝衛

監督が協力してくれた。ポッと出の監督よりもツボを心得ている。

今後は俳優の監督はむずかしい。人柄やキャリアにもよるが、いまのところ考えていない」というわけで、"商業ベース"に乗るということが、製作・配給会社が俳優にも監督をさせる―という最大の狙いがそこにある。商売になる。ヒットを生む映画こそモテモテなわけだが、それなりに作品的にもすぐれておもしろいものでなければならない。果してその点はどうか。

役者は役者として修業すべきだ

俳優の長岡丈二は「ボクもいろいろと監督やってみないか―といわれるけど、それだけはやらない。所詮、役者は役者でしかない。技術的なものが不足しているし、それは時たま奇技なアイデアを出すことはあるが、全体の映画の流れ、ヤマ場の盛り上げ方となると、やはり年期がいる。ボクは自分をわきまえていい役者になることの方に神経を使いたい」と俳優監督業を拒否している。

つまり渡辺監督の"自分の職分を守れ"という主張に合致しているわけだ。

さらに渡辺監督は"監督の権威を復権せよ"ともいっている。下降させたのも、実は監督側に責任の一端はあることも事実だろう。

俳優時代の加奈沢史郎

作りたい奴が作ればいい結果は客が決めるものだ

最後に新藤孝衛監督。これはより進歩的な結論といえるかも知れない。

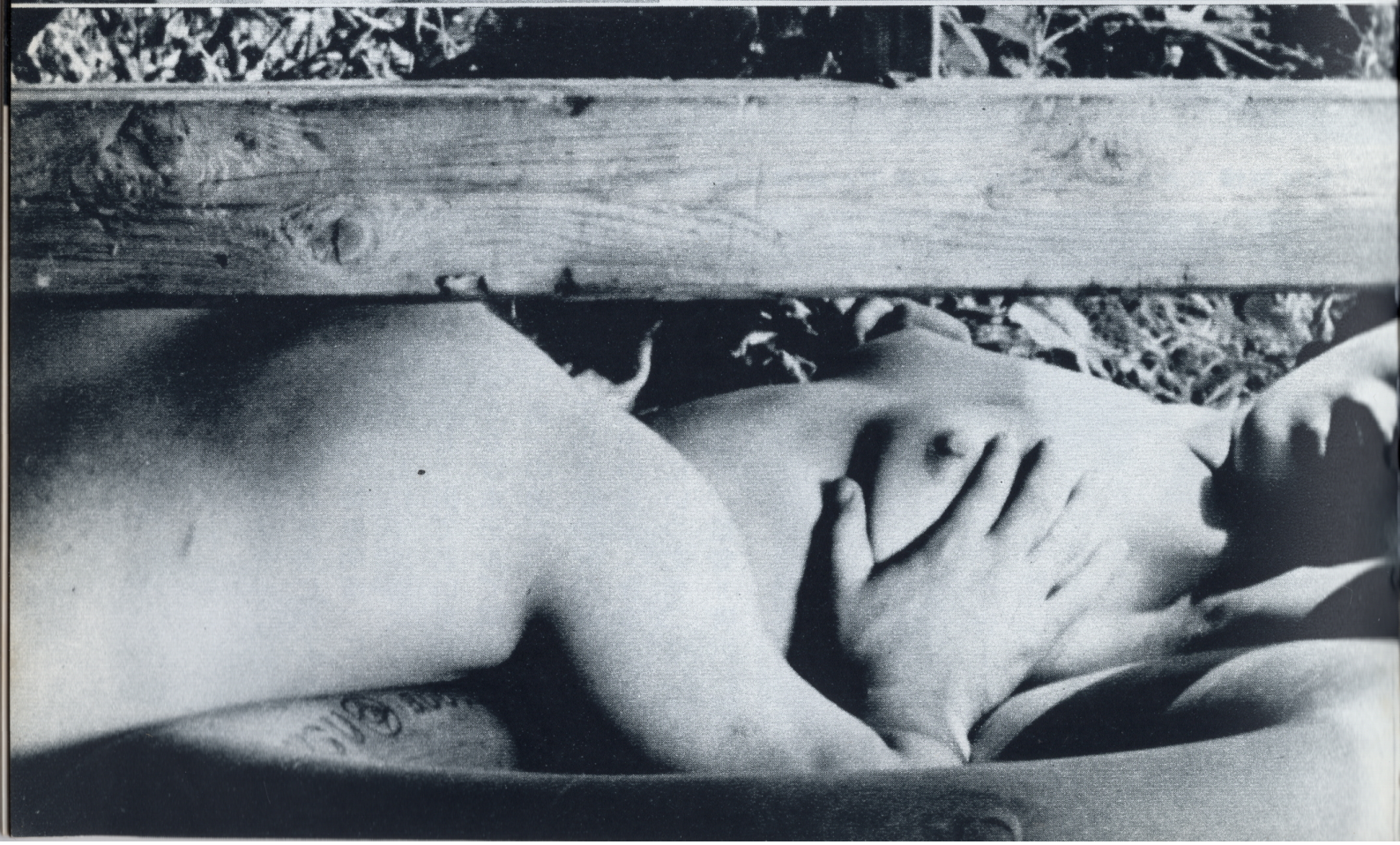
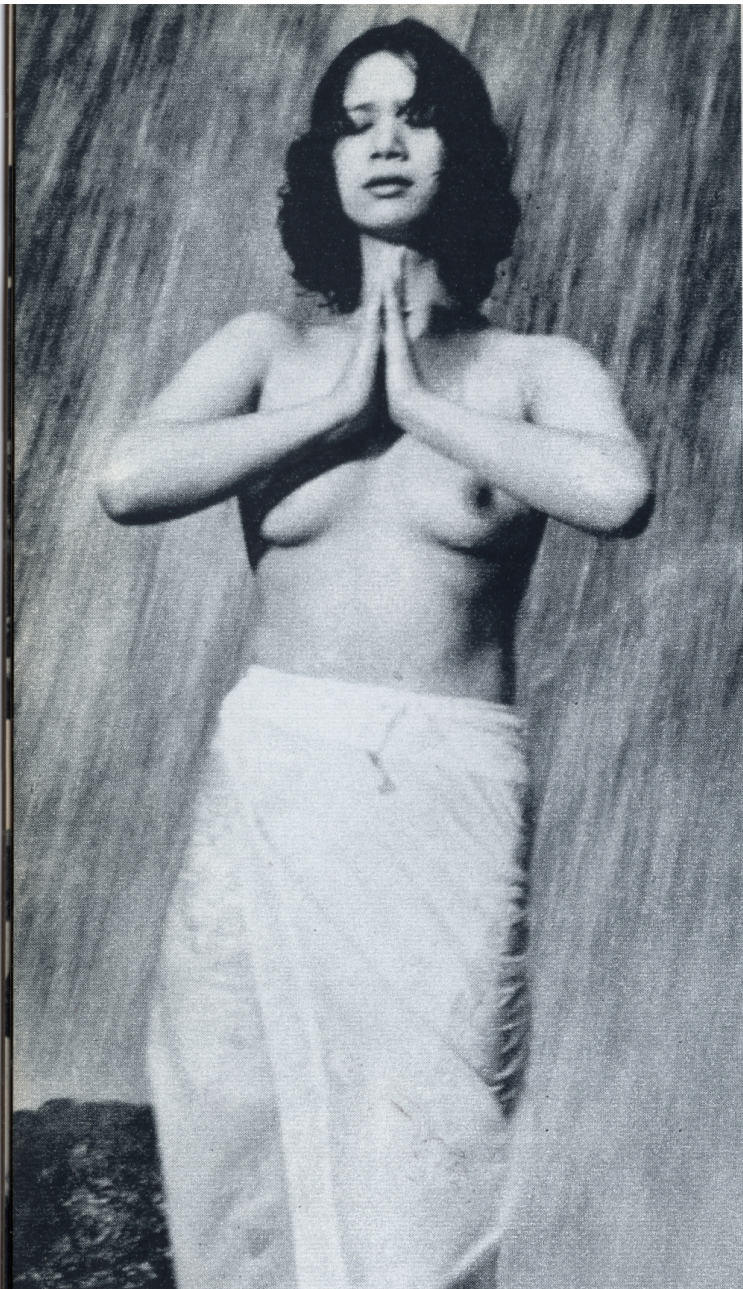
「ボクは俳優でも、カメラマンでも社長でもかまわない。作りたい人はどんどん作りなさいといいたい。ダメな作品はファンにソッポをむかれてピンク映画が徹底的にダメになり、プロダクションや、配給会社が潰れて整理されない限り、新しいピンク映画は生まれては来ませんよ。新しい時代のためにボクは体力と才能を伸ばして待機する力を養うしかない」。

SCREEN EROTICISM 衝撃の映像

今月の新作紹介

色情狂

＝日本シネマ配給

洋一（矢島宏志）はギャンブル狂で最近はチットもついていない。ある日、馬券場で六百万円が当っている宝クジを拾う。金とみただけで女たちはころころと寝るが、洋一は女漁りの旅に出る。ヒッチハイクに出合った女忍（友川ゆかり）には金を盗まれ、身投げの女初江（泉ゆり）を助け金をやるが見事にだまされる。八滝に打たれている八重（倉本とも子）と知り合う。八重は旅の男洋一のタネがほしいと強引に犯し十万円の礼金をくれるのだった。監督＝嵯峨泰彦

「私は我慢できない」上が丘みゆき下が倉本とも子

私は我慢できない

＝ミリオンフィルム配給

仁子（丘みゆき）の夫恵一（市村譲二）は事故でケガをしそれを苦にして自殺する。恵一の父清次（神原明彦）にスナックを出してもらった仁子は清次とも関係していた。ある日、街で若い男光二（国分二郎）に声をかけホテルで関係するが光二は死んだ恵一の弟だった。光二はアメリカに行っていたため兄の嫁が仁子だと知らない。女中の定子（倉本とも子）と仁子のスナックにいった光二は仁子を好きになってしまう。監督＝唐沢二郎。

乳房変身 ＝ＯＰ映配提供（関東ムービー作品）

射的屋の看板娘チイコ（瀬良美似）はボインで男とすぐ寝るので人気者。だがウソつきの天才なため信用がない。姉のメ太郎（大月麗子）は芸者で田島（市村譲二）の愛人だ。ある日、チイコはメガネ（島たけし）と湖の舟の中で情事に夢中になっていたが、そこえ瑠美（千原和加子）と情夫（宮瀬健二）が女高利貸しを殺し湖へ捨てにきた。それを目撃したチイコは姉や駐在（三重街竜）にいうがだれも信用してくれない。監督＝沢賢介。

上・２枚「乳房変身」

「性処理のテクニック」の有沢真佐美

性処理のテクニック ＝国映配給

コールボーイの女ボス（高見由紀）は五人のコールボーイをかかえている。未亡人（泉ゆり）やモーレッツ女広子（有沢真佐美）はコールボーイに夢中で欲求不満の処理をしていた。広子の夫（野上正義）は女ボスと知り合いコールボーイの女訓練師直子（青山リマ）により特別訓練をすることになった。監督＝関孝二。

禁断の恍惚

＝ミリオンフィルム配給

スナックのマスター（吉田純）は二セの精神科医だ 催眠術で女を寝むらせコールガールにしたてた。道代（高瀬リナ）は学生で毎日ヘッドホーンを耳にして三時間眠りながらフランス語の学習中に客を取らされてた。春江（小牧洋子）は毛がないための治療で、人妻の咲子（中川亜子）はセックスがうまくいくよう通うがみな売春をさせられていた 監督＝小林悟。

濡れた紅ばら＝ＯＰ映配提供（ムービー作品）

小中（武藤周作）は初体験の告白をＬＰにしようと街で女に告白させる。広子（友川ゆかり）は会社の同僚に肉体をもて遊ばれ捨てられる。美江（千原和加子）は女高生で大学生に、由加（沖さとみ）は実兄に犯され、圭子（嵯峨正子）は先生にとそれぞれ告白する。監督＝向井寛

女体交換＝ＯＰ映配提供（プロ鷹作品）

「夜這いの巻」「姦通の巻」「乱交の巻」の三話からなるオムニバスの艶笑編。正治（松浦康）と妻の洋子（瑠瑠美）の夫婦がおりなす人間の欲望のさまざまなかたちを、明るくおおらかに描いたセックスコメディ。友川ゆかり、谷身知子、北見マヤが出演。監督＝木俣堯喬・和泉聖治。

初夜のテクニック＝日映配給

玲（倉本とも子）は家が貧しく母の進める結婚に従う。恋人の学（矢島宏）とも別れ親友の桃（早川みゆき）との同性愛も精算し磨呂（津村茂）と結婚するが、夫はセックスが全然だめだった。毎夜、悶々と過す玲は別れた恋人の学のことばかり考えていた。監督＝岡本愛

淫らな花弁＝ＯＰ映配提供（大東映画作品）

私立探偵の中井（国分二郎）は女の肉体をもて遊び、恐喝を働き金をまき上げどんな出来事でもすかさずたぐり寄せエジキにしてしまう。京子（水木良子）も中井のワナにはまり込んでゆく。城新子・沖さとみ・長岡丈二が出演。監督＝渡辺護。

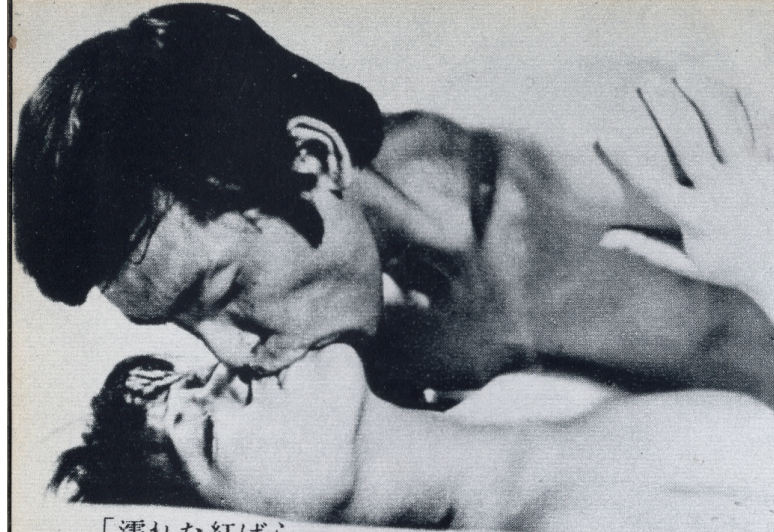
「濡れた紅ばら」

「女体交換」の珠瑠美

「初夜のテクニック」の倉本とも子

「淫らな花弁」の水木良子

飢えた淫獣

＝六邦映画配給

健三郎（今泉洋）は弘子（谷ナオミ）のムコ養子になったが変質的な弘子を捨てて明美（横山洋子）の許へ走る。女中の秀子（空井みづほ）は暇をとるが、下男の塚本（山本昌平）に殺される。新しい女中洋子（水木良子）は金を盗むが弘子と塚本に見つかり土蔵でリンチされる。夫の情事を知った弘子は明美を誘拐し男たちに犯させるが、健三郎が刑事を連れてきた。監督＝谷ナオミ

男を責める谷ナオミ

縛られる水木良子

SHINE KICHIGAI
シネ基地街・マルチ情報

映画監督の他社交流が活発
●日活ロマンポルノの旗手・藤田監督ら意欲の演出

東宝ではこんど日活ロマン・ポルノの旗手藤田敏八監督を招いて「逃亡者」(仮題)を撮るし、元日活の中平康監督に「混血児リカ」(主演青木リカ)、さらに日活の江崎実生監督に「高校生無頼控」を撮らせる。この二本はいずれも劇画。

そのバーターじゃないだろうが東宝の西村潔監督が日活ロマン・ポルノを撮るし、東映の中島貞夫監督がATGで「鉄砲玉の美学」をクランクさせた。映画界の異動は活発でいいことだ。

ピンク映画界もこの際大異動して心気一転をはかるべし。

「エロスの誘惑」が優秀映画奨励金に立候補した心意気

文化庁の47年　優秀映画製作奨励金交付候補作品に「忍ぶ川」「夏の妹」「軍旗はためく下に」「男はつらいよ・柴又慕情」の四本がきまった。この選考はさらに十二月と四月の二回行ない、その中から十本に一千万円ずつの奨励金が交付される。ATG作品などは一本千二百万円ぐらいで作っているのだから〝当れば〟大きい。

この審査基準の内容は〝商業的、政治色のない作品〟となっている。
そこで日活ロマン・ポルノ「エロスの誘惑」—**写真**（監督藤田敏八）も候補作品として申請した。
あるところでは身のほど知らず—と皮肉られているが、ポルノ映画がなぜいけないのか。フーテンの寅さんがよくて、エロスがダメ、それはないでしょうというわけだ。
ピンク映画の方も一つ申請してはいかが、万に一つ、当たればデッカイ。権利を放棄することはないと思うよ。

「犯された白衣」

大学祭でひっぱりダコのポルノ

●圧倒的人気集める若松孝二監督作品

ことしも大学祭がはじまる。各大学の映画研究会からフィルムの貸し出しが目立っている。ことしの特色は日活ロマンポルノの上映が、東北大学、学習院大、立教大、日本女子大、明大、早稲田、慶応、東大などで行なわれるが、一方以前として人気のあるのが若松孝二作品だ。
アングラセンターに16ミリフィルムの貸し出しを申入れてきたのが十三校で三十本。
若松作品は「セックスジャック」「犯された白衣」「胎児が密猟するとき」。大和屋竺の「裏切りの季節」「毛の生えた拳銃」などや、足立正生作品。あいかわらず、若松プロ作品は大学生の間でモテていることが立証されている。

ミニ・ミニ・ニュース

★OP映配では来年度より全作品をオール・カラーにする。
★国映は正月配給作品を関プロ作品特殊カラー・ドキュメント「随胎王国ニッポン・行為・出産」（監督関孝二）と決め、すでに出産のシーンは撮影を終えた。赤外線フィルムレントゲンカラーフィルムなどを使用し迫力を出すことにしている。
★「裸の十九才」（東宝）や「売春暴行白書」などでフレッシュな肢体で人気があった青山リマが倉本とも子と名前を変え、カムバックした。また、「男女和合術」「私の異常性体験」などで感じさせるベッド・シーンをみせてくれた霧原ゆかも外国旅行から帰りカムバック。

倉本とも子

霧原ゆか

ロケ・レポート

北見マヤの実感的ワイセツ演技

幼な妻・初夜のよろこび

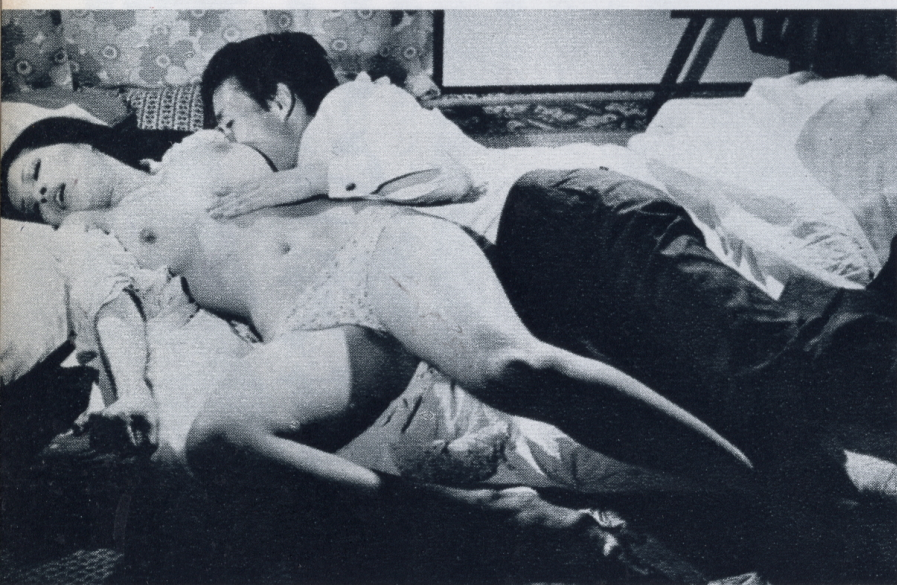
今月のロケ・レポートは南雲孝監督の「幼な妻・初夜のよろこび」（青年芸術映画協会製作・ミリオンフィルム配給）です。

東京・中野区沼袋のある民家。そこをロケセットにして、激しいベッド・シーン撮影を取材するのに延々十二時間余。北見マヤと港雄一らが入り乱れてポルノ度をエスカレートさせていた。

アパート住まいの高校の先生（津村茂）が、隣りの人妻（北見マヤ）が外交員（日野伸二）と浮気しているのを、押入れのワレ目から覗き見してはモヤモヤ。先生に惚れているのが女学生（丘みゆき）。先生のセックスの要求を拒否しつづけ、先生はカッカ。キャバレーのホステス（桜マミ）と出来たりしながら、ラストでセーラー服の幼な妻が、女になるっていうお話。

「真面目にやっている人物たちの行為が逆に笑いになれば…」と南雲監督。喜劇タッチのメロドラマというべきか。

この日の撮影は浮気女房の北見マヤが、外交員の日野と情事に燃える場面。「このごろ北見クンは美しく女っぽくなって……」と監督にいわれて、マンザラでもない北見マヤ。この女優、ベッド・シーンをやらせたら実感的迫力演技をみせて最

近注目されている。
「あたし、このままじゃむなしいのよ。もっと女優としてなにかがある、生き甲斐みたいなものがほしいのよ。台本渡されて、きょうは○○組、明日はホレ、××組と…ベッド・シーンやって、一体何が残るっていいたいの。もっと成長したいし、目標がほしいわ」
北見クンは切々と訴える。オッパイの重みが、彼女の思考性を重くしてんのかしら。根性アリマス。真剣に悩んでいるこんな純な女優もいるんだ。周囲はもっと身を入れて育てるべきじゃないかね。
サテ、撮影は北見クンが一糸まとわず、

日野クンも同様、日活ポルノみたいに、前貼無用之介。どうせ写りやせん。「さあ重なって、そう北見クン上になる。オッパイを吸う、ハイのけぞる、脚を開く、そうそう」南雲監督は二人のセックスシーンを指図する。
北見マヤは脚をからみエクスタシーの表情よろしくハッスル、なかなか迫力ある芝居をやってのけたのでした。
つづいて彼女のダンナ役の港雄一先輩の登場だ。間男しやがって、殺してやる！と出刃包丁で刺殺されるのだが、髪を引っぱられ、押し倒されてサンザン。シーンが変って、港と北見のベッドシーン。パンティをはぎとられて、B90のボインのオッパイの乳首が港サンにモロに吸われちまう。なにしろ、港雄一といえば、本気に芝居するので有名。北見の乳首は中にメリ込んでいる形だが、港にバッチリ吸われてピョコンと突き出した。
「港サンって本気にやるんだから…」と北見は上気したカオ。港は「今晩夜食なかったもんだから…フフフ」。夜食は北見のオッパイというわけか。参った参った。先生と生徒のSEX場面で森昌子の「先生」の歌を挿入するそうだ。

《ポルノ対話》

性の全告白

《城新子》の大胆なY談
欲情から歓喜へのプロセス

その瞬間爪先までしびれ、絶頂感は一時間も体の中で燃焼する……

城新子の略歴⬇

25年3月18日、九州若松生まれ。若松女学院を中退。17才のとき、歌手をしているお姉さんのもとに夏休みで上京。そのまま九州にも学校にも帰らず、モデルや、クラブの案内係などをやり、ことしの3月渡辺護監督の「女高生の週末夫婦」でデビュー。主役三本ほか30本に出演。最近作は日活ロマン・ポルノ「女子大生のセクシーダイナマイト」。趣味はマージャンとボーリング。身長157、体重42、B80、W58、H84、MAGプロ所属。

22才にしては若いムードだけど、よくよく話をきいてみると、やっぱり年の功とでもいいますか、年相応の物の考え方や、思考がちゃんとゴザイマス。

「Hな質問してみたいけど?」「ハイハイ、いいです。あたし、そういうの好きなの」となかなか積極的にヒザをのり出して来た。サースガ。やっぱりピンク映画の注目株だけのことはあらあね。いい感じ。ピンと応えてくれるところは、やっぱり現代っ子のよさ。歯切れのよさであります。

二十才、いや二十五、六才すぎると、セックスの話をききたーいなんていうと、一瞬、ためらったり、恥ずかしがったり、敬遠したりする人がいる。

ところが、この城新子クンは「ワイセツなセックスの話をするのがトッテも好

感度抜群

デートのとき顔みてるだけで、もう濡れてきゃう。SEX終っても一時間ぐらい快感の残映があるワ。

きよ」というのだから、やはりポルノっ子とでもいいますか。いいですねえ。オープンで。あけっぴろげで。そうときまりゃあ、なんにも遠慮したり、こちらが、モタモタ、照れることはないズバリ、ハッキリきこうじゃないか。イクゾ。

●いまどんなセックスをしてるんですか。特定の彼氏いるとか。月に、いや週に何回ヤルとか?

新子 もちろん、恋人いますよ。こんなに若くて、いい線いってる女の子を放っておけるワケないでしょ。相手はね、二十八才の自由業の人なの。お互い忙いけど、なんとか電話したりして、ホテルで会ってセックスするの。月に十回かな。

●というと三日にあげずーか。かなり燃えるんだろう?

新子 ウン、好きな人なら、顔みてても濡れるわね。

●SEXは満足してるんだろう?

新子 会ったとき一回だけだけど、それあもうエクタシーに達して、動けなくなるほどにしびれて、足の先まで感じっぱなしなの。それも一時間くらいは感じているなあ。とってもいい気持よ。セック

スってこんなにいいものだとは思わなかったわ。

彼女のこれまでの男性経験は20人はいるという。そうしたキャリアを経て、いまの恋人とセックスの歓喜にひたっているわけだ。なかなかやるねえ。

濡肌激情

一生懸命やってくれる男の顔をチラッと覗き見るとそれだけでまた燃えてきちゃうの—

●体位とかそんなのは、いろんなバリエーションを試みてハッスルするわけだろ。どんな体位が一番感じるのかな。

新子 いろんなのやったことあるけど、やっぱり正常位が一番好き。結局はそれが一番いいと思うわ。ある程度の重量感とか、抱きついて夢中になってしがみついて燃えちゃうのは、やっぱり女が下になっての方が充実感あります。あたしね、電気つけてるのが好きなの。相手のカオをチラっとみるの。以外とみてるんです。相手が懸命に〝愛してくれている〟という確証を、下からチラリみているのが好きだし、一緒に燃えちゃうもの。

●たいていの女の子は目を閉じて、悶えるのに、キミはなかなか大胆だなあ。

新子 だって、女が絶対に目をあけちゃならないという規則はないでしょ。

●名器なのかな。いいっていわれるだろう?

新子 いいと思うわ。私から名器だなんていえないわよ。いい悪いは相手がきめることでしょ。食べてみておいしいってのは、食べた本人がきめるんだから…。

●それで妊娠したことないのかい。

新子 ウン、避妊もしないし、妊娠もしたことないの。ストレートに射精してもらった方が、とっても感じるわね。過去にはコンドーム使ったことあるけど、あれ、なんか、自然なムードや感触をこわして味けないものね。でも妊娠したことないってのは、畑が悪いのかなあ。発育不全かも知れないわ。

●それで、エクスタシーを感じるんだろう。

新子 でも感じるのと、子宮構造とは違うのよね。

そういえば、おっしゃる通りかも知れ

ませんねえ。セックスでエクスタシーを感じるからすぐ妊娠するとは、限らない。性感帯と、妊娠能力とは別なものだ。不感症でも妊娠する人もいる。しかし、彼女は、なかなか性感帯がよろしいようで…好きな人にならどこをさわられてもビリビリと感じちゃう感度のよさ。バッテリーはきわめて良好なのです。

肉体解剖

小学校のときはお風呂で剃っちゃった。という彼女の体毛は濃く密生し、強烈な反応を示す。

●ところで生理になったのは何才で?

新子 中学一年生のときね。

●体毛が生え出したのは。

新子 早かったみたい、小学校五年生のころチョボチッボ生えてきて、恥ずかしくって剃っていたんです。おフロで剃ったの。

●脇毛なんかや、マユ毛が濃そうだしね。毛深い方かな。

新子 ええ、かなり密度はあります。九州の人って毛が濃いんです。だから情が濃いいし、あの方も名器が多いし、セックスも好きなのね。

●どんなタイプの男性が好きかね。

新子 カオとかじゃなく、思いやりのある人ね。そしてスマートな人がいいわ。なにをしてもイヤミのない人っているでしょ。そんな人。

●はじめての映画のベッド・シーンの相手は誰だった?

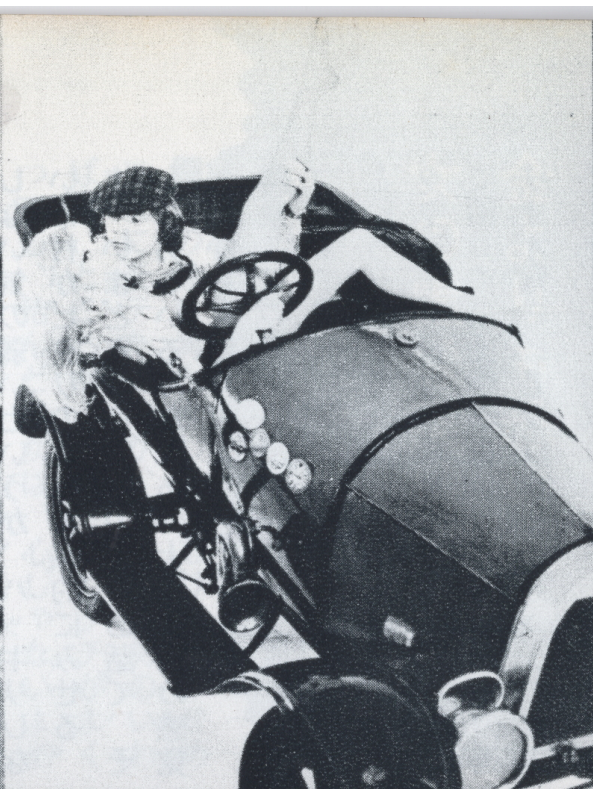
新子 梠山拳一郎さん。興味が半分あったし楽しかったわ。あたしね。ピンク映画に出てるってここで、偏見の目でみられるのってアタマに来るんだ。ポルノ映画がやれワイセツでどうのこうのといってるけど、チャンとストーリーがあって、楽しければそれでいいと思うのよ。変な目でみる方が、よっぽどワイセツ人間なのよ。

●ま、大いにガンバッて、キミの時代を築いて下さい。

▲「SEXインブルー」

洋画ポルノ

白い肉肌の挑発

「S'EXインブルー」(アメリカ) はハリウッド番外地にひそむブルー・フィルム業者の内幕をあばいたセミ・ドキュメント。ブルーフィルの撮影現場にカメラをもちこみ、その撮影風景や、SMプレイ・ホモ・レズ、フエラチオとブルー・フィルムの製作者たちの生態を生々しく描いている。主演はアラン・パトリック。監督はアラン・パトリック・チャピユイス。ミリオンフィルム配給。

◀「カーＳＥＸ大特集」

いまや車は、若い人の家であり、いこいの場である。さらには人間最大のたのしみであるＳＥＸの場所とまでなった。

「カーＳＥＸ大特集」(西ドイツ) はどんどん増加し、いまや若い人の必需品とまでなった車と人との関係を紹介している。

車の中でのＳＥＸが一番いいというわけであらゆる乗物の上でくりひろげるＳＥＸ。それに新旧とりまぜて、いろいろめずらしい車が登場し、Ｔ型フオードのおふるい所から、ベンツ車などはドイツのお国柄、実に堂々とした最新の車がいっぱい。主演はコタ・ユパ。監督はオランダの有数なポルノ作家、ガブリエル・アクセル。ＮＣＣ配給。

前時代的男と女の関係が招く悲喜劇

愛憎のからみ（葵映画作品）

■サラリーマンの市村譲二は、恋人の泉ユリとデートし、セックスを要求するのだが、処女なところから、愛しながらも拒みつづけてきた。それをまたなんにもしない気の弱いというか、ハッキリしない市村がピタリの役を実感的にみせる。ま、いまどき時代離れのしたお話で、そんな男もいるんだなあ、大正人間の感覚が描かれてゆく。

■泉ユリの同僚の加藤リカが、彼に目をつけて「あたしあんなタイプの人好きよ」という。ある夜、泥酔した市村を加藤がタクシーで送ってゆき、そのままホテルに泊って、加藤が犯してしまう。女の送りオオカミ。モウロウとしているオトコをふるい立たせるにはフェラチオがききめがあるのか、それらしいベッド・シーンがある。部屋が暗く、時々港のサーチライトが点滅して、彼女の裸体がみえる。凝っているようで、ベッド・シーン映像処理としてはかなり時代もの。かつてのフランス映画をおもわせる。そしてやたらと船が出る。

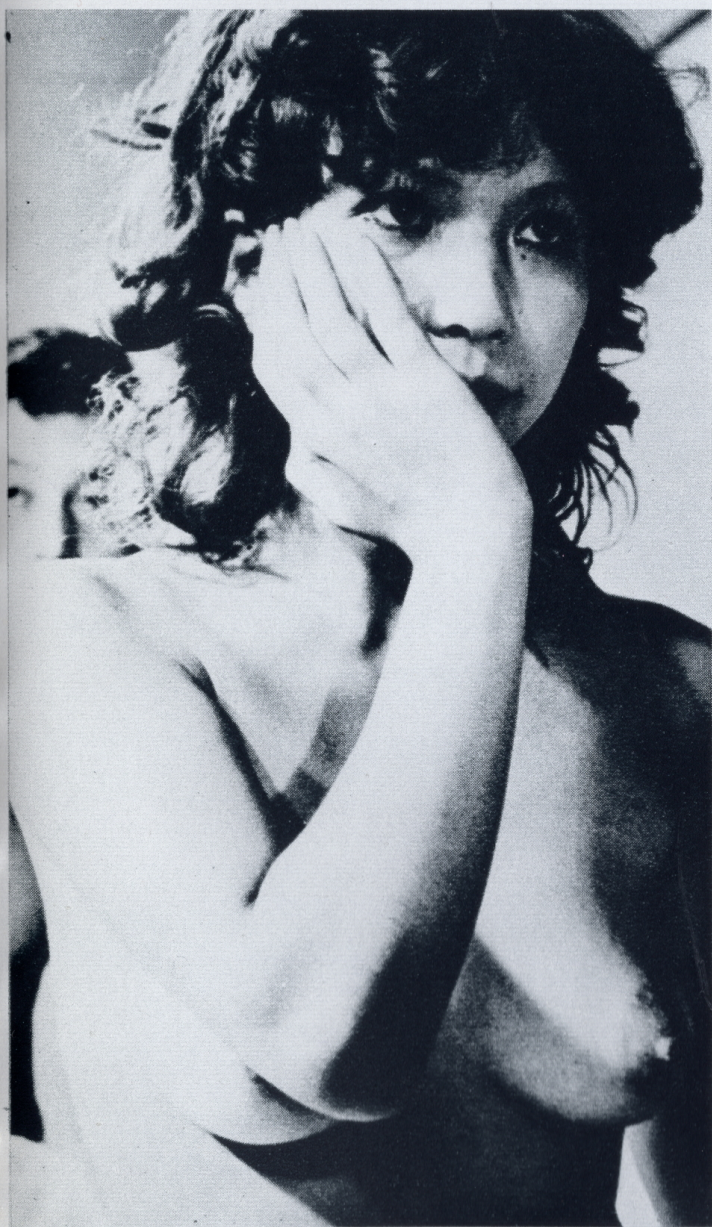
■彼氏の浮気を知った泉ユリは悲しむが彼の同僚宮瀬健二が彼女を酔わせて、バージンを奪ってしまう。このシーンはムードがある。セックス開眼した泉ユリは市村に進んで肉体を与える。宮瀬とも出来、市村とも出来て、メロメロになった彼女は会社を辞める。そして椙山拳一郎部長に「妻が子供を生めない体で、受胎契約をしてほしい」と頼まれ、〝腹貸し料〟をもらって抱かれる。

■泉の乳首をつまんだりするベッド・シーンはあまりさえないし、もう一つクライマックスがほしいところ。市村と再会、妊娠を告げる。「子供は他人にやる約束をした」といい、市村は「それがオレに対する復讐なのか！」という。

■この辺がドラマのヤマ場で、彼女は「誰の子なのかお腹にきいてみたいー」という。西原儀一の脚本は、手堅いストーリーの展開で、加藤リサの奔放なベッド・シーンがひろいもの。監督＝千葉隆志。

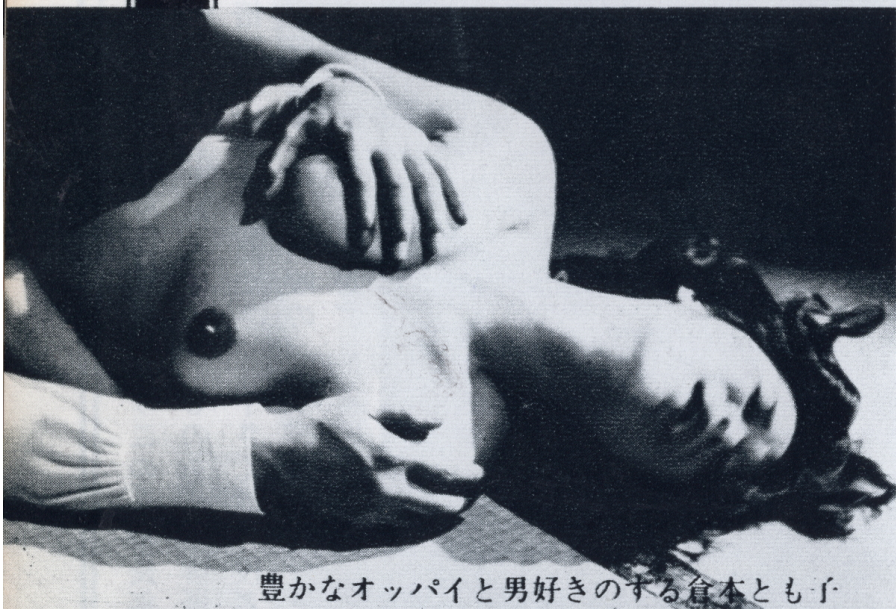
（眼　次郎）

加藤リサがフレッシュでいい

●ピンク映画みたまま

金よりも恐い女の虚像実像

色情狂（日本シネマ作品）

■この世に男と女しかいなければ、せめて女にモテたいのが、すべての男のいわば夢。ところが、なまじ顔カタチがよくっても、殆んどの女は、心じゃないよお金だよ、なんてほざくからたまらない。

■矢島宏志は競馬狂の、いや競馬狂だからいつも文無し。金のない男はお呼びでないと、打算的な女どもにいつもバカにされている。それが、六百万円の当たり宝くじを拾って一時成金になるや、ホステスの沖さとみ、女子大生の霧川アンリなど、次から次へとモテちゃって、サオの乾く暇もない。大金を懐に、夢を求めて旅に出ると、画学生の友川ゆかりと気が合い、ついでに体も合っちゃって野宿とは相なった。翌朝起きてみると女も財布も消えていて、頭にきたけど有金はまだまだ十分。ホッとしたところで入水自殺を計る人妻、泉ユリを目撃。助けてやると、グウタラ亭主をかかえて可哀相な身の上に、同情から愛が芽生え、彼女に更生資金をやるってえと、これがじつは狂言自殺。金があればあるでムシられる自分に哀想をつかしたところへ現われたのが、豊満な肉体を惜し気もなくさらして水ゴリをする不思議な女倉本とも子。彼女は矢島に体を投げ出して、わけは後で話すから、とにかく抱いてといやに積極的だ。仰むけに寝てもくずれない豊かな乳房、丸くて美しいピンクの乳首、濃い腋毛の剃りあとのナマナマしさ。尻の割れ目の神秘な深さに無我夢中。その上逆に金までくれて、彼にとって初めてのいい夢も、血族結婚の悪い血を追い払うための〝種牡馬〟役ではあった。

■と、ここまでのセックス場面は奇妙なことに、すべて女上位の女尊男卑。傷心の彼をなぐさめてくれた最後の女、温泉ホテルの女中三条セリ相手に、やっと男がリード役と思えたが、彼女は板前としめしあわせた美人局。結局イタさぬままに有金ふんだくられて、元のモクアミ、旅から逃げ帰る。金があってもなくっても、やっぱり夢ははかなく、女は恐い。

■倉本とも子がいい。グラマーで男好きのするマスクは、大いに期待がもてて演技も達者だ。監督＝嵯峨泰彦。**ほそかわ圭**

豊かなオッパイと男好きのする倉本とも子

映画を楽しくするベテラン役者

吉田純

★この道18年のベテラン俳優。児童劇団からの役者生活を加えたらその倍に近い道を歩んできた。新東宝を経て、東京興映の「乾いた唇」(監督小森白)でデビュー、以来、渡辺護、山本晋也、佐々木元監督作品に数多く出演してきた。
★人情ものや、やくざ、喜劇となんでもござれの幅広さはやはりこの人の長年のキャリアがものをいう俳優で友人の鏡勘平さんは「役者の信念を失わず、純粋で、それを一貫して通している。理論派でもある」愛称〝純ちゃん〟「役者バカ」(向井寛監督)といわれるが、いま、この世界で貴重品でもある役者バカが数少なくなっ
★役者に徹するこうした〝役者バカ〟によってピンク映画界は保たれてきた。それを忘れてはなるまい。
「映画にひきつけられているのは、年中さまざまな人生(役柄)を幅広く楽しめるから」という。それだけその役に没入しているというべきだろう。
★ときには役に乗りすぎて、オーバーヒートぎみのときもあるが「それは直情型な性格のせいでしょうな」といい手綱を引いてゆきたいともいう。
「本質はセンチメンタルなんです」といい、「壺さがし三番勝負」での寅さん的な役が、その本質をにじみ出していた。
映画の中身を楽しくさせてくれる貴重な存在、仲間から慕われる人でもある。40才。眼

「やわ肌献上」の小川節子

一周年を迎える日活ポルノ映画

日活の「エロスの誘惑」と「一条さゆり・濡れた欲情」が大ヒットした。新宿日活オデオンでは二日目が二、一一三名、大阪、神戸、京都など千名を上回る好成績で日活はやったーとニンマリ。ポルノ映画も完全に定着してファンを集めている。

十一月の番組は一週が「団地妻女ざかり」で宮下順子がピンク映画からこれまた日活に定着してしまった。二条朱実もカムバックして「妻三人狂乱の夜」に主演。二、三週は「白い天使の抱擁」(片桐夕子、続圭子)「官能教室愛のテクニック」(田中真理、絵沢萠子)、四、五週は「昼下りの情事・裏窓」(白川和子・宮下順子)そして日活ロマン・ポルノ一周年記念作品としてオールスターによる「新色暦大奥秘話―やわ肌献上」(監督林功、小川、二条、山科、サリー、原、片桐、青山、田中)と「宝田由加里㊙オンステージ」が公開される。

▲「昼下りの情事・裏窓」の白川和子と殿山泰二

▲「白い天使の抱擁」の片桐夕子

▼「愛のテクニック」の田中真理

OP系11月の映画ガイド

10/31～11/6	11/7～11/13	11/14～11/20	11/21～11/27
女体交換（オール・カラー）（OP映配）	乳房変身（OP映配）	欲情七ツ道具（OP映配）	未開娘の性（OP映配）
幼な妻初夜のよろこび（オール・カラー）（ミリオンフィルム）	ポルノ婦人科（ミリオンフィルム）	男が知りたい性の秘密（OP映配）	妻の浮気夫の浮気（オール・カラー）（OP映配）

恵通系11月の映画ガイド

10/31～11/6	11/7～11/13	11/14～11/20	11/21～11/27
幼な妻初夜のよろこび（ミリオンフィルム）	ポルノ婦人科（ミリオンフィルム）	夜昼しびれ泣き（東京興映）	恍惚の遊び（日本シネマ）
飢えた淫獣（六邦映画）	性処理のテクニック（国　映）	男が知りたい性の秘密（OP映配）	女体列島改造（東京興映）
女体交換（OP映配）	乳房変身（OP映配）	欲情七ツ道具（OP映配）	未開娘の性（OP映配）

■年間購読者募集のお知らせ

成人映画専門館でしか発売していない「成人映画」誌を、定期的に講読できるシステム、それは年間購読会員になることです。半年間一、二〇〇円、一年間二、四〇〇円で送料は当方で負担します。
なお、お申し込みは現金書留でお願いします。

■バックナンバーのお知らせ

成人映画の専門誌として幅広くご愛読いただいております「成人映画」も82号となりました。成人映画に関しての貴重な資料としてはこの「成人映画」しかありません。
在庫も少なくなりましたのでこのチャンスに集めてみませんか。お申し込みはお早めに。なお、現在品切れのバックナンバーはつぎの通りです。
5号、12号、14号、23号、24号、25号、26号、29号、30号、31号、33号の11冊です。各号とも74号まで一部百円です。お申し込みは現金書留か切手でお願いします。

●編集後記●

■紅葉の美しい季節。ピンク映画界も全プロ・オールカラー時代に突入。
■渡辺護監督の提言はピンク映画界を憂慮しての発言、こうした提言をぜひおよせ下さい。それによって特集を組んでゆきたい。
■東映の決算報告によると、ボーリングがダメで、映画興行がそれらをカバーしたという。映画の底力、再び映画の時代を予見している。ピンク映画も、いい作品、いい監督は残るということだ。ガンバリましょう。

成人
映画

成人映画■昭和47年11月1日発行・通巻82号・毎月1回発行■編集兼発行人・川島のぶ子■発行所・有限会社・現代工房＝東京都港区六本木三の四の三四・601号・〒一〇六■電話・東京03（583）1513■定価二〇〇円

ポルノ度バツグン！のぞきのテクニック!!

11月封切

OL・新妻・女子学生

㊙のぞき

監督・岡本愛・早川みゆき・平河英子・谷玲子・日野伸二

豪華ライン・アップ➡

12月 愛の性典

正月 恍惚のエクスタシー 愛愁

2月 婦人科㊙手術室

日映株式会社　千代田区外神田6—16—9緒方ビル(831)9016

「成人映画」昭和四十四年十二月十八日第三種郵便物認可 昭和四十七年十一月一日発行毎月一回一日発行 通巻82号昭和47年11月1日発行 編集発行人 川島のぶ子 発行所 東京都港区六本木三―四―三四 六〇一号室 電話(五八三)一五一三 現代工房 定価二〇〇円